第１回京丹後市中央図書館を考えるみんなの会議 議事録

１　会議名　　第１回京丹後市中央図書館を考えるみんなの会議
２　開催日時　　令和８年１０月６日（火）午後６時００分～午後８時１５分
３　開催場所　　京丹後市役所網野庁舎ら・ぽーと２階集会室
４　出席者
（１）委 員
岩渕紀子、荻和孝、木佐一真悟、木本敦子、櫛田啓、坂田真慶、伊達深雪、谷口潔、野木俊宏、平松隆夫、増田明子、行待佳平、吉岡高博、和田直子
欠席６人（川口愛華、塩谷若菜、大下倉美穂、種池陽太、中村智彦、味田佳子）
（２）アドバイザー
吉成信夫、守本陽一
（３）事務局
教育長　松本明彦、教育次長　川村輝義、生涯学習課長　松本優、同課長補佐　橋本将彦、図書館長　亀田真奈美、あみの図書館　田辺聖子、同課主任　平田有希子、同課主任　野村拓矢
市長公室政策調整監 川口誠彦
５ 次　第
（１）開会
（２）委員委嘱、委員紹介
（３）アドバイザー紹介
（４）開会あいさつ（京丹後市教育委員会教育長）
（５）会長及び副会長の選出
（６）事務局からの説明
（７）ワークショップ
（１）アドバイザーからのレクチャー
（２）ワークショップ
・まちの記憶、図書館の記憶について
・図書館に期待すること
（８）事務連絡
（９）挨拶（副会長）
７　公開又は非公開の別 公開
８　傍聴者　１０人
９　要旨（議事経緯）

開会

＜事務局＞

定刻となりましたので、ただ今から、第１回「京丹後市中央図書館を考えるみんなの会議」を開会します。委員の皆様におかれましては、公私とも大変お忙しい中、ご出席くださいまして、誠にありがとうございます。

私は、本日議事に入りますまでの間、進行をさせていただきます、京丹後市教育委員会　教育次長の川村でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本会議の名称については、これ以降、「みんなの会議」として略称で進めさせていただきます。

本日の資料については、事前に配布させていただいたファイルに綴じ込んであります。みなさんファイルはお持ちでしょうか。資料１、資料２、資料４については修正がありましたので、差し替え資料を席上に配布しております。各自で資料を差し替えていただくようお願いいたします。

続きまして、みんなの会議・委員の委嘱でございます。本来であれば、お一人ずつ委嘱通知書を交付させていただくべきところですが、時間の関係もございますので、机上配布としております。誠に恐縮に存じますがご了承賜りますようお願い申し上げます。

続きまして、みんなの会議を構成する委員の皆様方について、資料１をご覧ください。時間の都合上、お名前のみご紹介しますので、恐れ入りますがご起立のうえ一礼いただければと思います。

～委員紹介～

続きまして、みんなの会議のアドバイザーお二人をご紹介させていただきます。

～アドバイザー紹介～

このあと、お二人のアドバイザーからレクチャーもいただきますので、よろしくお願いします。

また、本会議はワークショップ形式で進めていきますが、議論を可視化するためイラストや図形などを用いるグラフィックレコーディングの手法を用い、会議の記録を行っていきます。作成いただくのはNPO法人グローカル人材開発センターの肥後さんです。よろしくお願いします。

本会議の成立要件につきまして、みんなの会議設置要綱第７条第２項の規定により「委員の過半数の出席」が必要と定められています。本日、委員定数２０人のうち１４人のご出席をいただいておりますので、会議の成立要件を満たしておりますことをご報告申し上げます。

それでは、開会にあたりまして、京丹後市教育委員会松本教育長から、ご挨拶を申し上げます。

＜教育長＞

みなさん、こんばんは。教育長の松本でございます。

本日は大変お忙しい中、また遅い時間にもかかわらず、「第１回　京丹後市中央図書館を考えるみんなの会議」にお集まりいただき、誠にありがとうございます。今回、公募委員をはじめ、様々な分野から総勢 20 名の委員にご参加いただくこととなりました。メンバーの顔ぶれを拝見しますと、現役の高校生から、地域で活躍される企業の代表の方まで、本当に幅広い世代・立場の方々にご参加いただいております。皆様には、委員をお引き受けいただきましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

さて、本市における中央図書館の整備につきましては、これまでも様々な検討を重ねてまいりましたが、関連する予算案が令和７年９月、そして令和８年３月の２回にわたり市議会で否決されるという、非常に厳しい結果となりました。教育委員会といたしましては、この重い事実を真摯に受け止めております。私たちが目指そうとする図書館の姿や、市全体の図書サービスがどう向上していくのかというビジョンを、市民の皆様や議会に十分にお示しすることができていなかったと、反省しております。

こうした経緯があるからこそ、私たちは今一度原点に立ち返り、本当に市民の皆様に愛され、求められる図書館のあり方を明確にしたいと考え、今回、「京丹後市中央図書館を考えるみんなの会議」を設置したものであります。

この会議は、かしこまった、堅苦しい会議ではございません。お一人おひとりのご意見や想いをしっかりとお聴きできるよう、「ワークショップ形式」を中心に進めてまいります。

高校生の視点、企業を経営される方の視点、そして日々の暮らしの中での視点など、お互いのアイデアを掛け合わせることで、素晴らしい化学反応が起きると考えております。

委員の皆様には肩の力を抜いて、ぜひ「気楽に」自分のお考えをお話いただきたいと思います。今日のこの場が、笑顔とアイデアが飛び交う、「わきあいあい」とした雰囲気の場になることを、私自身もとても楽しみにしています。

なお、この後、会長・副会長の選任がありますので、中央図書館の整備に向けて、目指す図書館の姿やサービス全体の在り方を協議いただくことを求める「検討協議依頼書」を会長に交付させていただきます。皆さま、ご承知おきください。

この会議を、本市の図書館環境をより素晴らしいものへと生まれ変わらせるきっかけとし、皆様と共に、新たな図書館の「基本計画」作成を目指したいと考えております。

結びに、委員の皆様のご健勝と、これからの活発で楽しい議論を心からお願い申し上げまして、第１回開催にあたっての私の挨拶といたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

＜事務局＞

続きまして、次第５の「会長及び副会長の選出」に移らせていただきます。

みんなの会議設置要綱の規定により、会長及び副会長は委員の互選により定めるとしていますが、事務局から提案させていただけたらと考えております。いかがでしょうか。

～異議なしの声～

異議なしの声をいただきましたので、事務局から提案させていただきます。

会長につきましては、京丹後市商工会会長の行待佳平委員、副会長につきましては、京丹後市図書館協議会会長の木本敦子委員をご提案申し上げます。

賛同いただける委員の方は拍手をお願いいたします。

～拍手～

ありがとうございます。それでは、会長は行待佳平様に、副会長は木本敦子様にお世話になりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、会長、副会長には、後日、この会議の会議録のご確認をお願いしたいと思います。内容ご確認のうえご署名いただけましたら、会議録は京丹後市ホームページ上で公開させていただきますのでご承知おきください。

それでは、早速でございますが、行待会長にご挨拶をいただきたいと存じます。

＜会長＞

ただいま会長ということで、大役を仰せつかりました行待と申します。

商工会の方に、みんなの会議の委員をどうですかというお話を頂いた際に、他の委員の皆さんもこの会議に積極的に出てこられているだろうと思いまして、商工会の中で「私が出ます」ということで、いち早く手を挙げました。本来は他の方にいろいろお願いするんですけれども、我々経済人は、やはり色々なところで、いろんな人と出会うことが一番重要な要素ですし、それに加えて、本というのは非常に人生を豊かにするものであるというふう考えております。私は最近あまり本を買わなくなりまして、本を買って山積みになると家内が怒るので、できるだけ図書館で借りるようになりました。そういう意味では、図書館を大いに活用していけるような、京丹後市の図書館がより豊かになるようなことで皆さんのお知恵をお借りしながら、進めて参りたいと思っております。アドバイザーの先生方にも、大変お世話になると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

議事

＜事務局＞

行待会長、ありがとうございました。ここからは、本日、準備している議事に入らせていただきます。本会議設置要綱の規定により、行待会長に議長をお願いしたいと思います。行待会長よろしくお願いします。

＜会長＞

それでは、ここから議長を務めさていただきます。お手元の次第に従いまして、進めさせていただきます。

次第６「事務局からの説明」 を事務局から、次第７「ワークショップ」については、吉成アドバイザーの進行により進めていただきます。よろしくお願いします。

＜事務局＞

それではまず事務局からご説明させていただきたいと思います。教育委員会生涯学習課の松本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

～資料３に基づき事務局から説明～

＜事務局＞

それではここからワークショップに入らせていただきます。

～資料４、資料５に基づきアドバイザーレクチャー～

＜委員＞

１点質問させてください。みんなの会議では基本計画を作るという目標があると説明がありました。その基本計画は、アドバイザーお二人のお話を聞くかぎり、かなり膨らんだものになると思います。そうすると今まで議会でも各地域でも議論があったように、現実性が問題になると思います。

その現実性について、ある程度この会議で加味しながら進めていくのか、それとも、現実性は置いておいて、みんなの会議では理想像を話し合って、あとは行政や議会で審議してもらうということなのか、どちらの進め方かということを確認させていただきたいです。

極端に言えば、今ある土地や施設の中で中央図書館を整備できるという話もあるかと思います。

＜アドバイザー＞

これは私の個人的な考え方なので、もし違っていたら後で事務局に訂正していただきたいのですが、私が考えているのは基本的には現実性加味です。もちろん、現実性加味であると思っていますが、私も行政に長くいた人間ですけれども、初めから機能はどうしたらいいかとか現実性の話をしだすと、辛い話にしかならないと考えています。初めから、「建物造るのに何十億と掛かるので、それはできないです」というような話になってしまいます。そうではなく、「中央図書館に何を込めたいのか」、「自分はどういう思いを込めたいのか」から始めて、膨らませていきたいと考えています。令和８年度は３回しか会議がない中で、「まちの記憶」「図書館の記憶」というテーマからワークショップはスタートします。それは委員の皆さんが、図書館に対してどう思っているか確認するところからスタートしたいからです。

＜委員＞

基本計画案を膨らまして最後はこの会議で集約するのか、それともこの会議では集約までせず、あとは事務局にお任せするのか、どちらでしょうか。

＜事務局＞

この３回のワークショップで、図書館像全体を話し合っていただけたらと思います。みんなの会議自体は来年度に続いていくというふうに思ってますし、令和８年度は２カ年事業の１年目ということになります。今年度、機能面をどこまで話し合いができるかわかりませんが、まずは皆さんの思いを話すところから始めていきたいと思います。よろしくお願いします。

＜委員＞

わかりました。

～ワークショップ実施（会議意見は別紙）～

＜会長＞

吉成アドバイザーありがとうございました。良いグループワークになったと思います。進行を事務局にお返しします。本日は誠にありがとうございました。それでは委員長にお返します。

＜事務局＞

ありがとうございました。まだまだ、ご意見等多々あろうかと思いますが、予定の時間になりましたので、本日はここまでとさせていただきたいと思います。

まだ話足りないという委員の方がおられましたら、お手元にアンケート用紙がありますので、そちらからご意見等いただければと思います。

次回２回目のみんなの会議の開催日程につきましては、１１月９日（月曜日）１８時から、また、３回目につきましては１２月２１日（月曜日）１８時からの開催を予定しております。

改めて、ご案内させていただきますが、ご予定いただきますようお願いいたします。

また、１０月３０日（金曜日）、先進図書館である岡山県の真庭市立図書館の視察を計画しております。お手元に視察資料を用意しております。出欠の返事はこの後でもよろしいですし、後日でもかまいませんので、ご都合のつく委員さんは是非ご参加いただきますようお願いします。

それでは最後に、木本副会長からご挨拶をいただきたいと存じます。

＜副会長＞

第１回目のみんなの会議、本当にご苦労様でした。ワークショップでは初めてお会いする方と一緒だったんですけれども、私は２時間があっという間で、本当に楽しく和気あいあいとお話をすることができました。

お二人のアドバイザーのレクチャーを通して、これからの図書館の変わりゆく役割や大きな可能性を、皆さんで共有できたのではないかなと思います。

つまり、今までの「知りたい」「学びたい」という要求から、これからは「人と繋がりたい」「何か面白いことに出会いたい」「遊びたい」、そして「健康でいたい」という要求を叶える場に図書館はなりつつあるということを改めて感じました。

図書館が安心できる居場所となることで、人が集い、人と人が繋がり、それがまちを活性化させる。それだけではなくて、個々の人生の質とか、それから心身の健康も向上させる。図書館がそんな大きな可能性を含んだ、本当に楽しくなるような場になっていくと思いました。

次回は視察を踏まえて、より具体的に図書館サービスまで考えていくことになります。

従来の慣例にとらわれることなく、柔軟な発想で京丹後市が目指す図書館の姿、そんなものが少しずつ浮かび上がってくることを願っています。本当に今日は遅くまでご苦労さまでした。

＜事務局＞

木本副会長、ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、第１回京丹後市中央図書館を考えるみんなの会議を閉会とさせていただきます。本日は、ありがとうございました。

＜別紙 各グループのワークシート＞

1　ワーク①「まちの記憶」「図書館の記憶」について

（1）A グループ

【要旨】

［まちの記憶］

・海が近くにある生活が当たり前であった

・機音のする活気のある町であった。

・商店街でおにごっこをしていた

全体として、「人も町も活気があった」との意見が挙がりました。

［図書館の記憶］

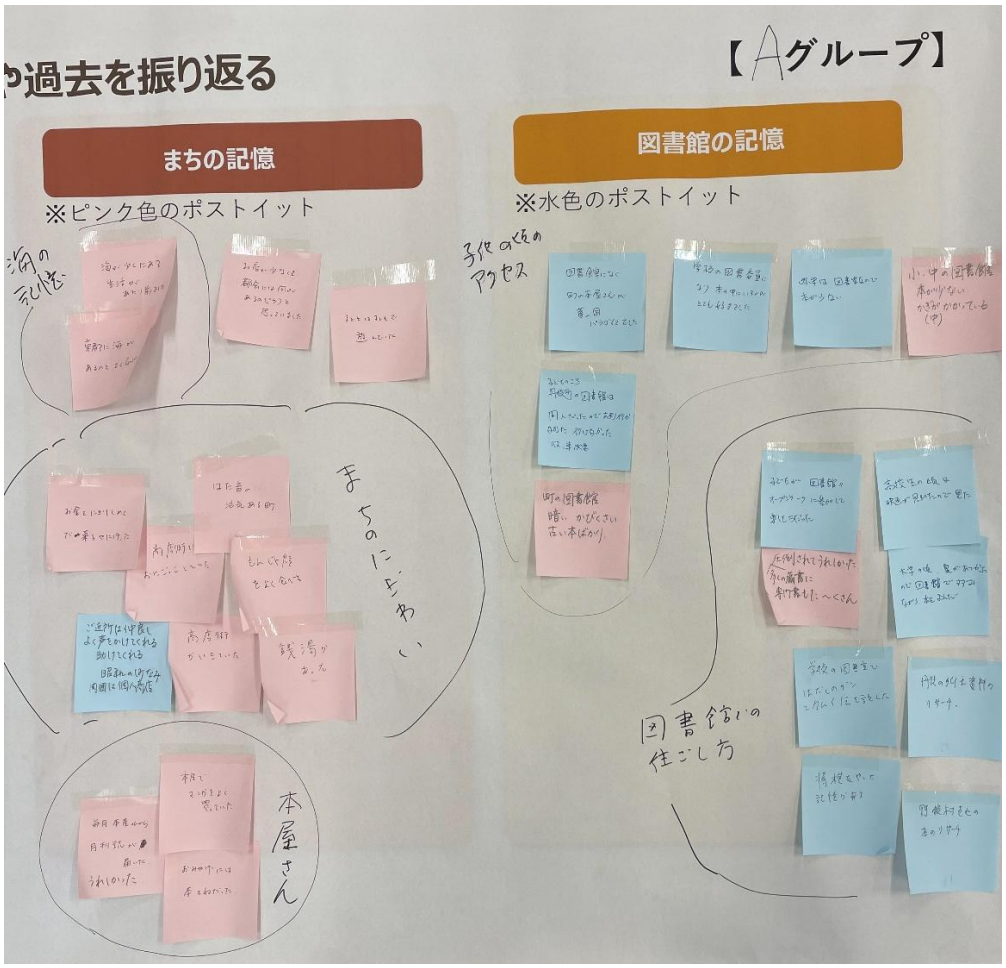
・子どもの頃、図書館はアクセスが悪く、行けなかった。

・町の図書館は暗くて、黴臭い古い本ばかりであった。

・図書館で将棋ができた。映画が見れた。

全体として、「小・中学生にとっては行きにくい場所であった」旨の意見が挙がりました。

一方、「高校生以上になると、自分で行ける場所となった」との意見もありました。



（2）B グループ

【要旨】

［まちの記憶］

・子どもが外で遊んでいた。一日中、外に居た。

・海の無いまちから嫁いできた。越してきた当初は海が怖かった。

・中学生～高校生の時期まで、地元にネガティブな想いがあった。

全体として、「子供が多かった」「怖い大人がいた」「活気があった」などの意見が挙がりました。

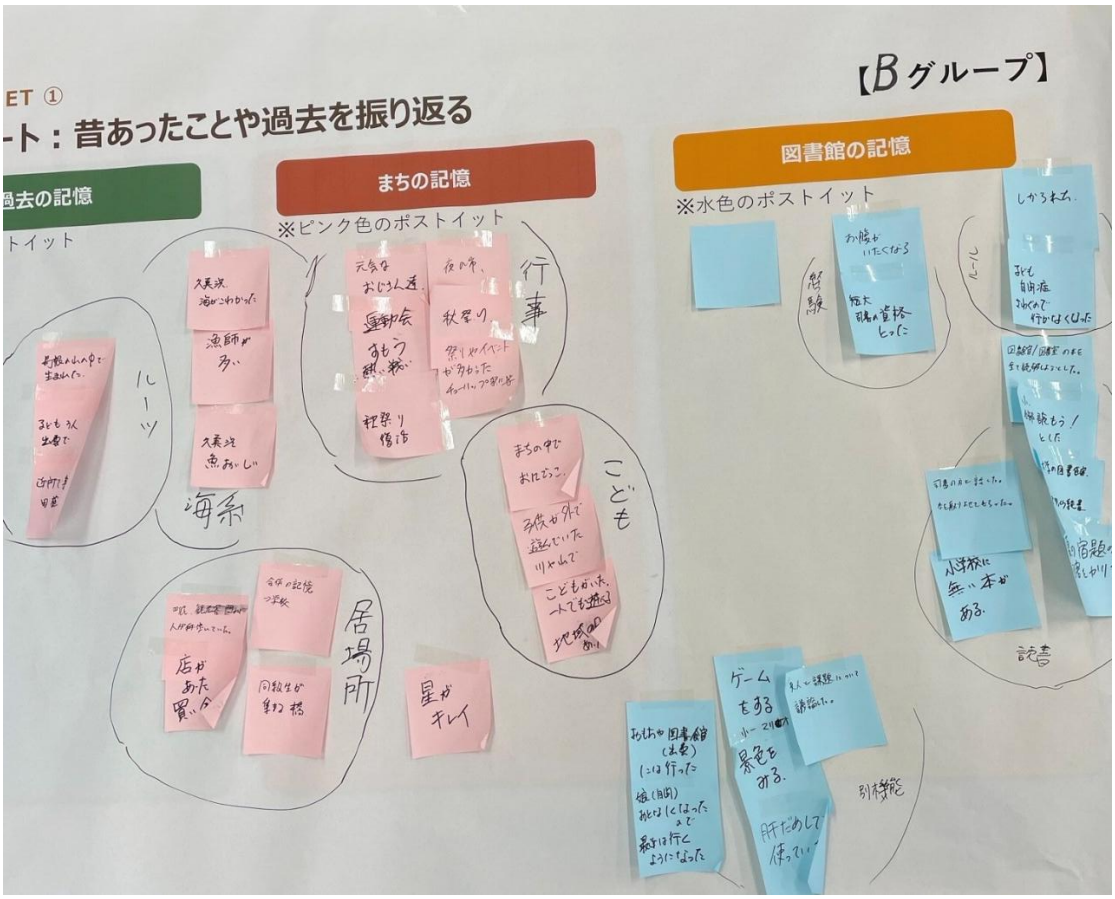
［図書館の記憶］

・普段は本を読まないので、夏休みの読書感想文を書くために本を借りた記憶しか無い。

・図書館で騒いで怒られた記憶がある。

・映画になった本が読みたくて図書館の司書に相談したら取り寄せてくれた。

全体として、「本を読むというより遊ぶ場所という認識であった」「行きにくかった」旨の意見が挙がりました。



（３）C グループ

【要旨】

［まちの記憶］

・子どもが多く、賑やかだった。

・小学生の頃は何でもしたいことができた。

・皆が本当に集まったり、ご馳走を食べられるのは祭りの時だけだった。

全体として、「子供が多かった」「活気があった」などの意見が挙がりました。

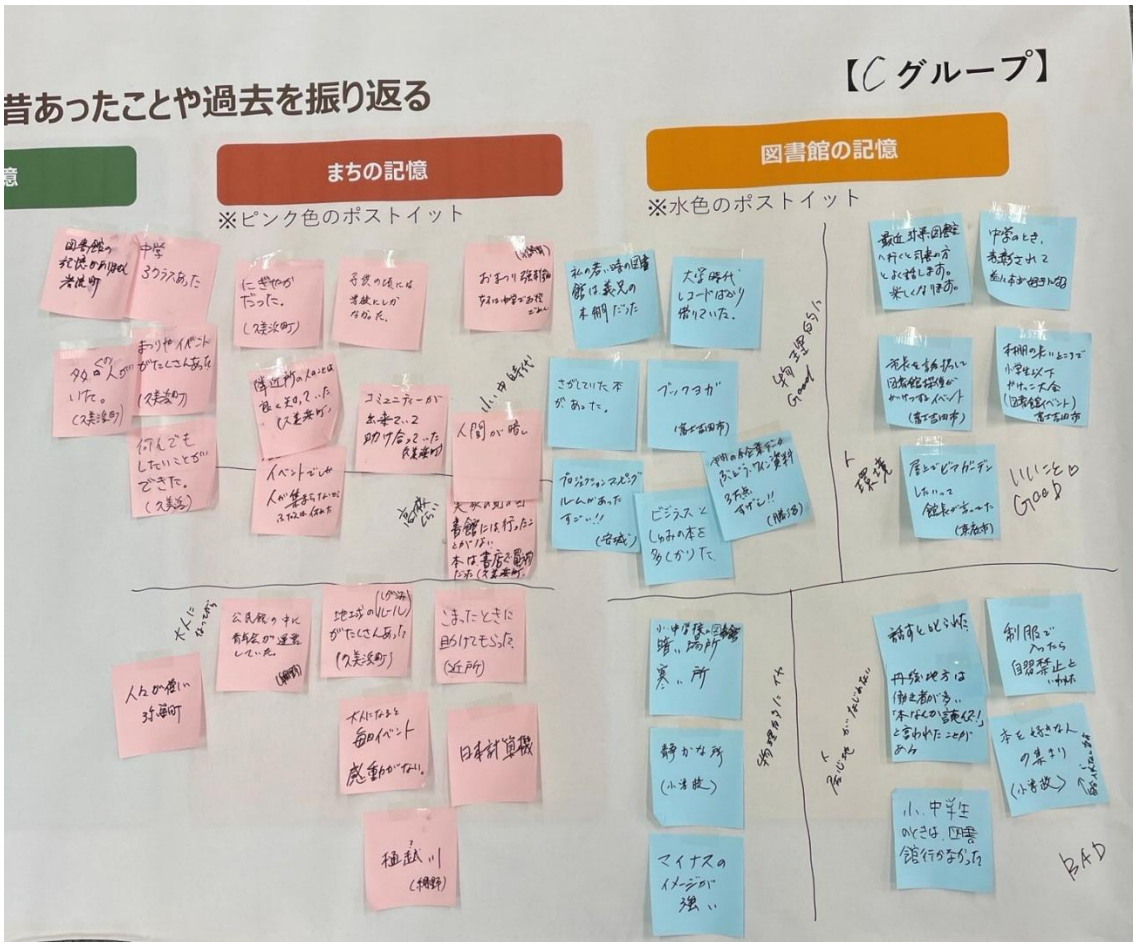
［図書館の記憶］

・制服で図書館に入ると自習禁止だと言われ、追い返された。

・小学校の図書室が静かすぎで、自分には合わなかった。

・本好きの人が集まるイメージで、自分は入りにくかった。

全体として、「図書館は敷居が高く、入りにくいイメージであった」旨の意見が挙がりました。



２　ワーク②「図書館に期待すること」について

（１）A グループ

【要旨】

・図書館が家の近くにあってほしい。

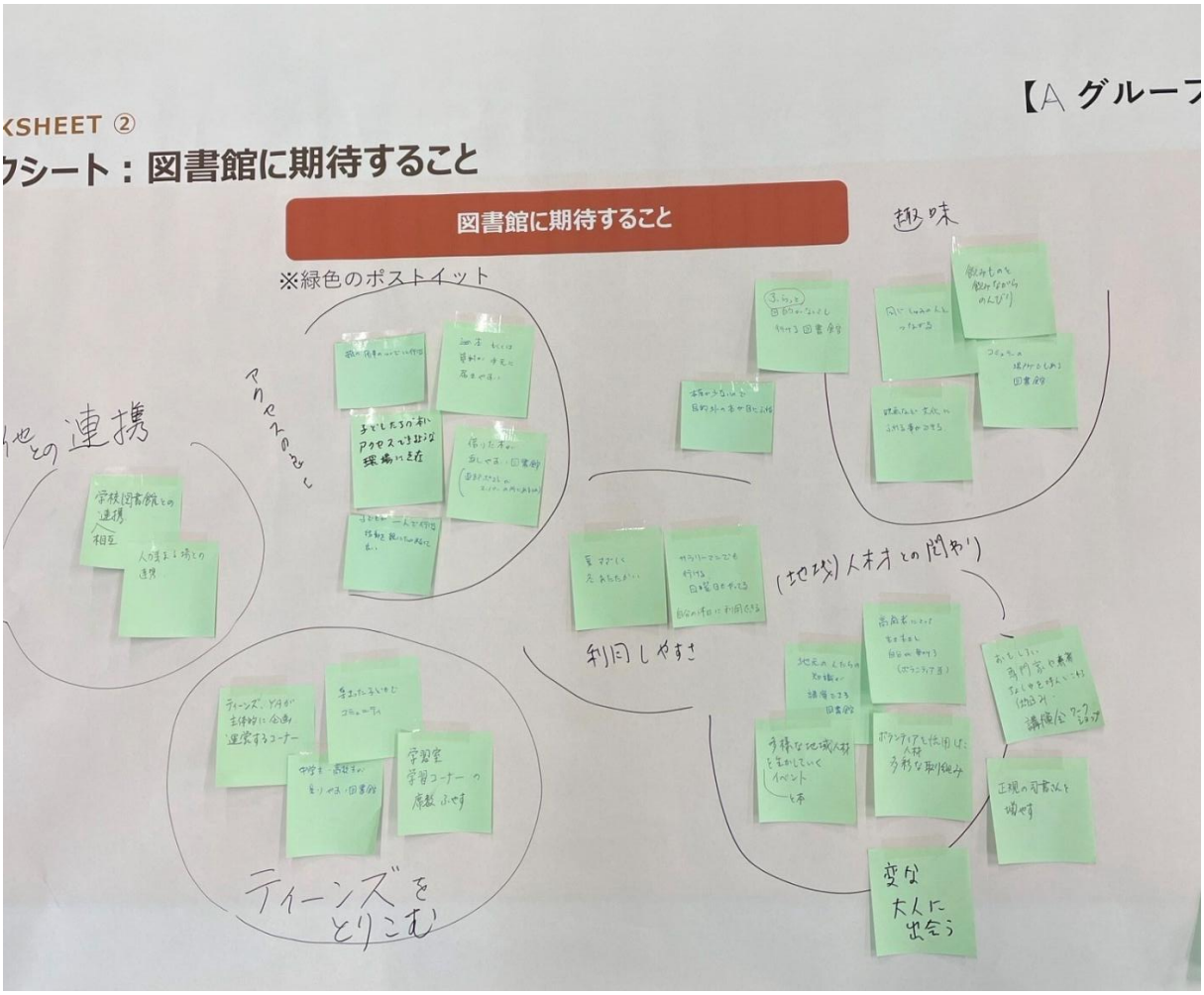
・専門家や著者のワークショップや市民大学を開催してほしい。

・目的なしにふらっと入れる図書館であってほしい。

・正規の職員や司書が多い図書館であってほしい。

・学習室、学習コーナーの席数を充実させてほしい。

等の意見が挙がりました。



（2）B グループ

【要旨】

・子どもが飽きない場所であってほしい。

・子ども達がものづくりを体験できるスペースがあってほしい。

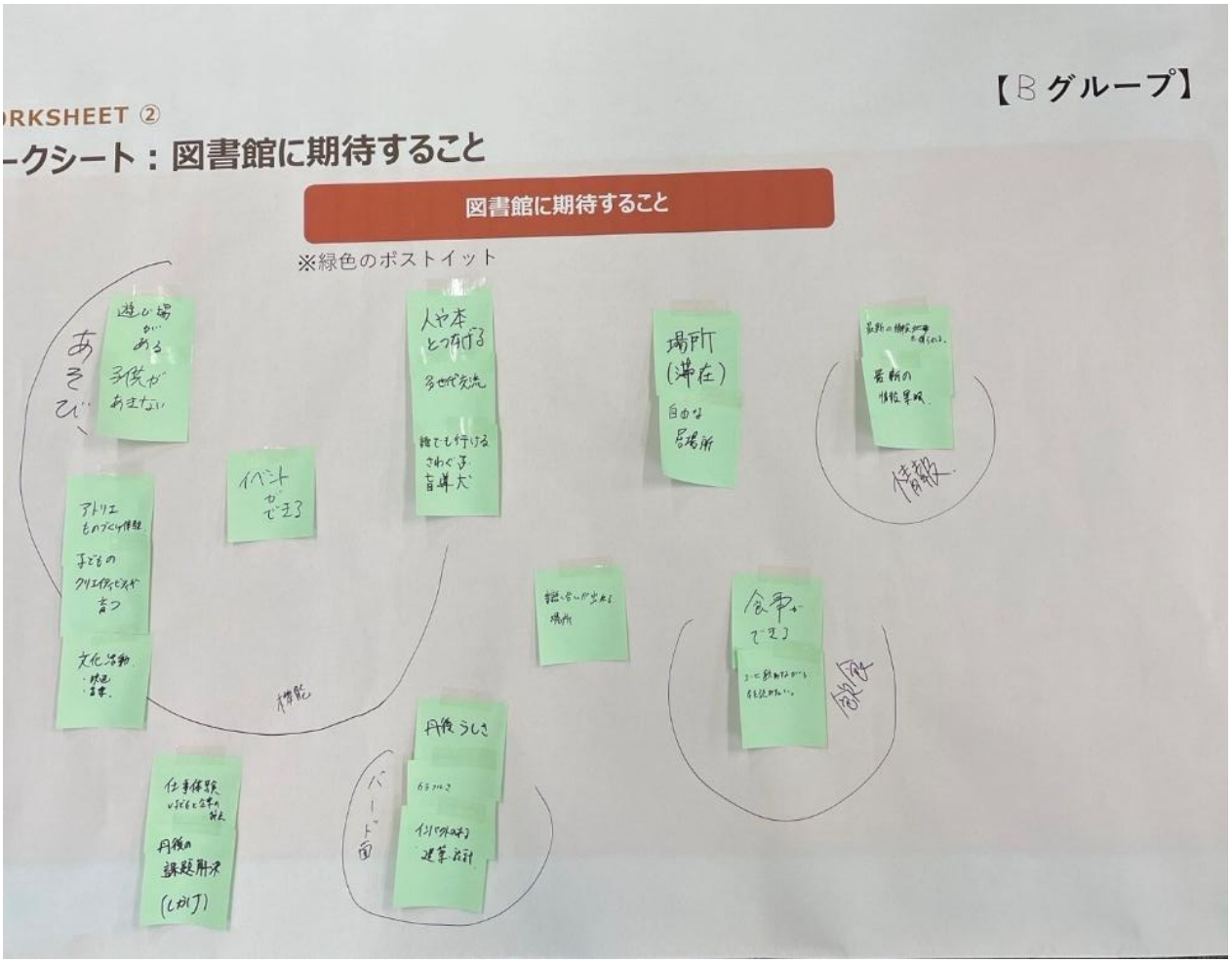
・図書館でネットミーティングができるようにしてほしい。

・丹後の課題を解決することを目的に掲げてほしい。地元企業と子ども達を繋げてほしい。

・本を読む場所だけではなく、地域課題を議論する場所であってほしい。

・他地域のスマートでおしゃれな図書館を真似するのはやめてほしい。京丹後らしさのある図書館を整備してほしい。

等の意見が挙がりました。



（３）Ｃグループ

【要旨】

・情報センターとして機能する場所であってほしい。

・丹後の歴史資料、郷土資料が集まっている場所であってほしい。

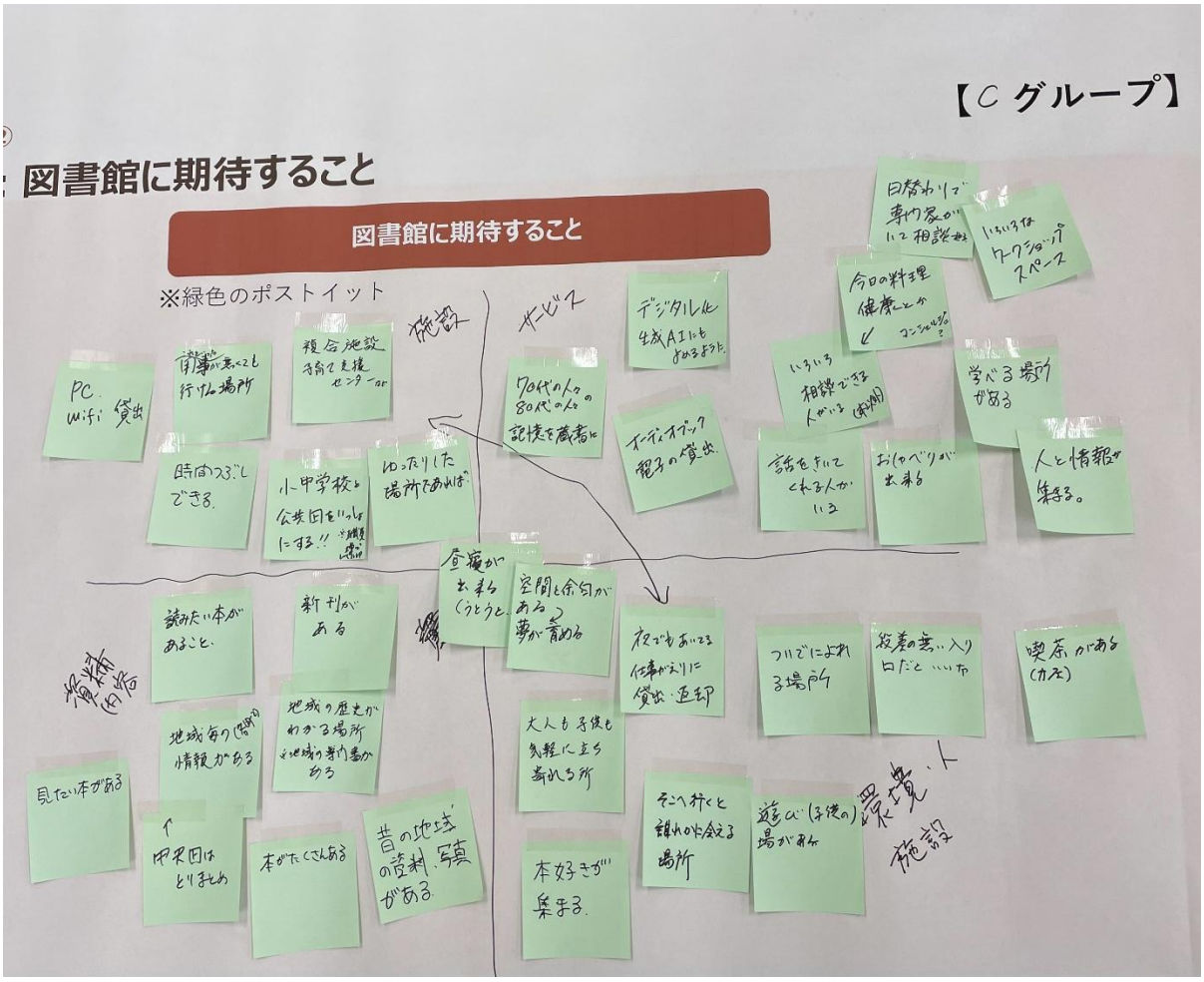
・オーディブルなどデジタル化を進めてほしい。

・図書館の正職員や司書がたくさんいる図書館であってほしい。

・各業界を学べるワークショップを開催してほしい。

・６町各図書館（室）で特色を分けて運営してほしい。中央図書館は情報の統括やハブ機能を担ってほしい。

等の意見が挙がりました。

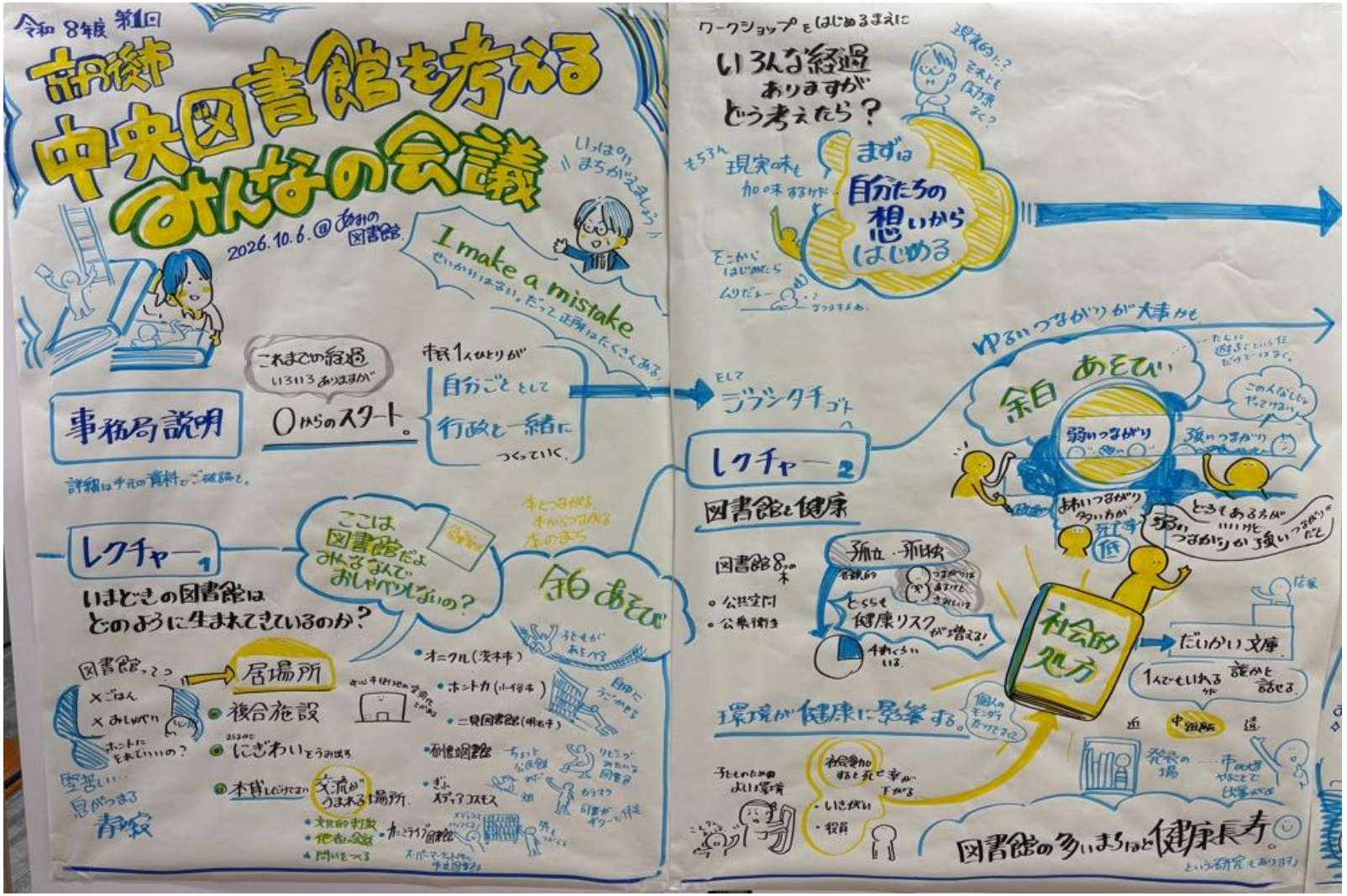


＜別紙 グラフィックレコーディング＞

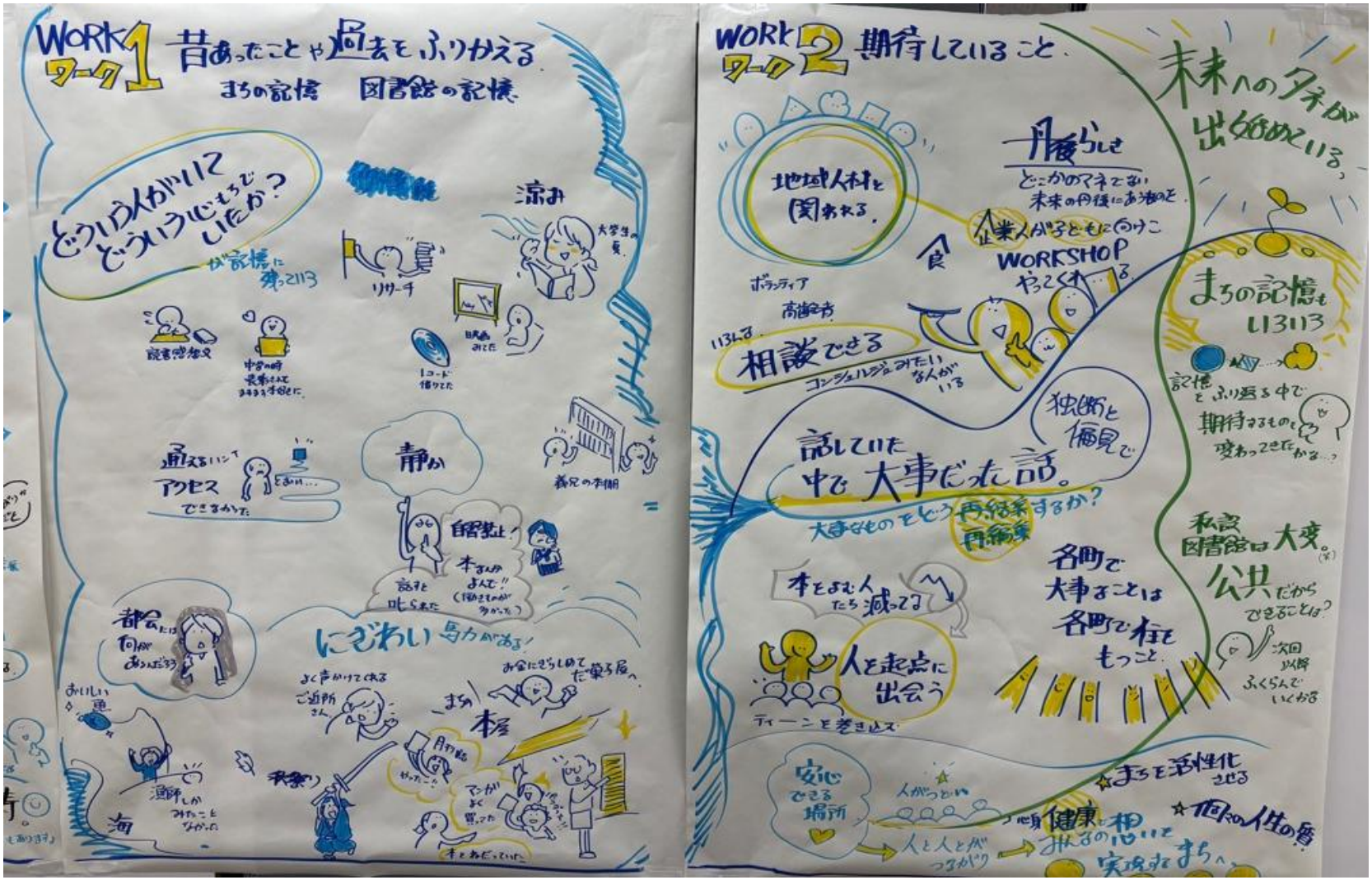
1　全体像



2　拡大①


令和8年 第1回
新潟 中央図書館を考える みんなの会議
2026.10.6.@あおの図書館
1 make a mistake
事務局説明
これまでの経過 いろいろありますが
0からのスタート。
市民1人ひとりが 自分ごととして 行政と一緒に つくっていく。
詳細は手元の資料でご確認を。
レクチャー1
いまどきの図書館は どのように生まれてきているのか？
ここは図書館だよみんなでおしゃべりないの？
図書館ってどこ
×ごはん
×おしゃべり
ホントにそれでいいの？
堅苦しい… 息がつまる 静寂
居場所
複合施設
にぎわいをうみだす
本貸しだけでない
文流がうまれる場所
文化的刺激
他者交流
問いをつくる
オニクル（茂木市）
ホントカ（小谷市）
二見図書館（明石市）
市民図書館
ぎふメディアコスモス
カラスク
図書がギッシリ
ワークショップをはじめるまえに
いろんな経過ありますがどう考えたら？
まずは 自分たちの想いからはじめる
もちろん現実味も加味するけど…
ココからはじめたらムリだよー
ブラブラチゴト
レクチャー2
図書館と健康
図書館8つの本
公共空間
公衆衛生
孤立・孤独
つながりはまあまあ
とくらも
健康リスクが増える！
4割くらいは…
社会的処方
だいかい文庫
1人でもいれる
誰かと話せる
環境が健康に影響する。
個人のモンダイだけでなく
子どものための よい環境
社会参加すると死亡率が下がる
いきがい
投資
図書館の多いまちほど健康長寿。
という研究もあります。
ゆるいつながりが大事かも
余白 あそび
弱いつながり
強いつながり
ときどきあるくらいがいい
弱いつながりが強いつながりだと
結束
近
中距離
遠
発表の場
市民大学やおとなの社会科見学

拡大②


WORK ワーク1 昔あったことや過去をふりかえる
まちの記憶 図書館の記憶
どういう人がいて どういうにぎわいだったか？
涼み
リサーチ
静か
自習室
にぎわい 島方がある！
まち本屋
海
WORK ワーク2 期待していること
未来へのタネが出始めている。
地域人材と関われる
月曜から
企業人が子どもに向けて WORKSHOP やってくれる
ボランティア
高齢者
いろんな
相談できる
コンシェルジュみたいな人がいる
独断と偏見で
話していた中で大事だった話。
大事なものをどう再編集するか？
再編集
まちの記憶もいろいろ
記憶とふり返る中で期待するものも変わっていくかな…？
私設図書館は大変。
公共だからできることは？
次回以降ふくらんでいくかも
名物で大事なことは名物で在ること。
本をよむ人たち減ってる
人と起点に出会う
ディーンと考え込む
安心できる場所
人がつどい
人と人とがつながり
健康と
みんなの想いを実現するまち
まちを活性化させる
一人一人の人生の質